

内航海運業の将来の方向性と 代替建造促進策についての論点整理（素案）

①内航海運業の将来の方向性について

<内航海運の位置付け>

貨物輸送量の約3分の1を内航海運により輸送している我が国は、諸外国と比較しても海上輸送が発達している「海洋先進国」であり、この輸送需要は将来に渡ってなくなるものではない。我が国にとって内航海運は必要不可欠であり、現在も、今後も、持続的・安定的なサービスの提供が日本経済にとって極めて重要である。

<国内需要減への対応>

人口減少社会の到来による内需の減少、国内企業の海外立地の進展や物流合理化の進展などを受け、内航海運に対する国内輸送需要そのものは産業基礎物資を中心に長期的に低下していくことは避けられず、これを前提とした業界の将来像を描いていくことが必要である。

<安定したサービス提供>

船舶の老朽化が進んでいる一方で、代替建造が進んでおらず、安全・環境面で負の影響や効率性の低下も懸念される。今後も多様化・高度化する輸送ニーズに的確に対応した持続可能なサービスを提供して行くため、代替建造の促進に向けた対策に取り組んでいくことが不可欠である。また、労働人口が減少していくことを踏まえ、安全面に配慮した上で省力化に向けた取組みを促進することも必要である。

<競争力の強化>

経済のグローバル化の進展に伴い、国内物流のトータルコストの縮減や、アジア経済の成長力を取り込むシームレスな輸送サービス

への対応が、我が国経済の国際競争力にとって極めて重要になってきている点を踏まえつつ、内航海運の競争力強化に向けた対策を行っていくことが必要である。

<環境対策>

地球温暖化対策については、今後も引き続き重要な課題となっていくため、環境性能の優れた輸送機関としての内航海運の役割は益々大きくなっていくことが考えられる。内航海運としても、環境産業として荷主に選択されるようなサービスの提供に向け取り組んでいくことが必要である。

②代替建造促進に向けた具体的方策について

<国内需要減への対応>

- 課題 1 輸送量増加に向けた取組み
- 課題 2 企業再生に向けた取組み

<安定したサービス提供>

- 課題 3 需給のミスマッチの解消に向けた取組み
- 課題 4 産業構造の転換に向けた取組み
- 課題 5 老齢船の代替建造促進に向けた取組み
- 課題 6 内航船造船業の産業基盤強化に向けた取組み
- 課題 7 資金調達方法の多様化に向けた取組み

<競争力の強化>

- 課題 8 一杯船主の競争力強化に向けた取組み
- 課題 9 規制の見直しに向けた取組み
- 課題 10 更なる技術開発による省力化・省人化の取組み
- 課題 11 暫定措置事業の見直しに向けた取組み

<環境対策>

- 課題 12 船舶の環境性能向上に向けた取組み
- 課題 13 モーダルシフトの促進に向けた取組み